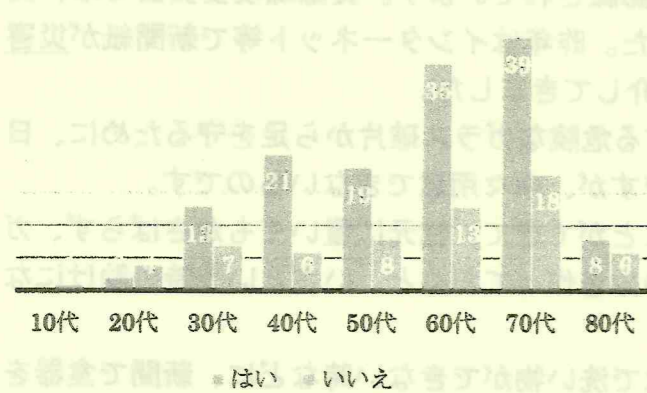


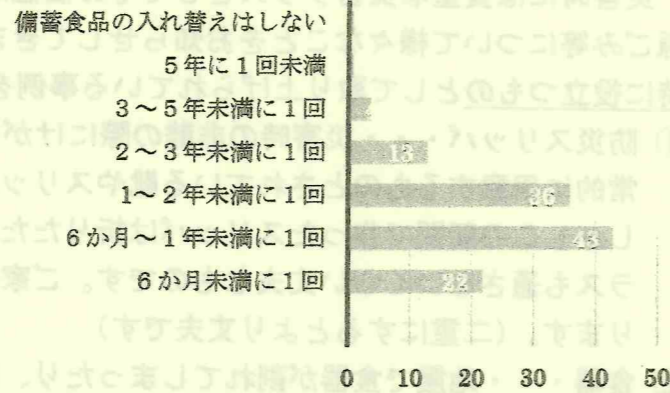
みんなで減らそう！ 災害時用食品ロス！

アンケートにより、家庭における災害時用食品の食品ロスの状況を調査。～市民 200 人にアンケートしました～

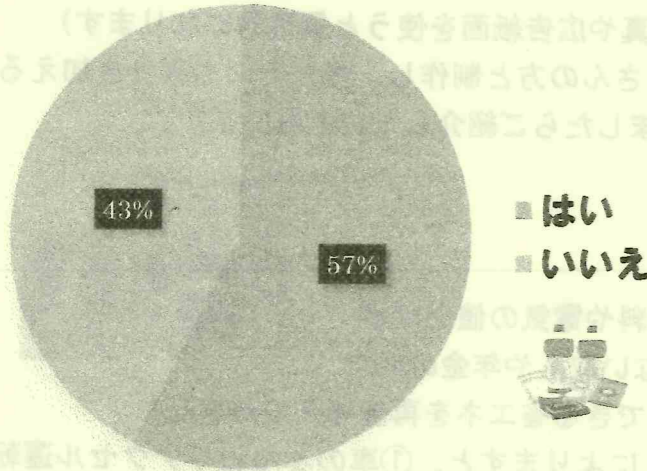
災害時用食品の備蓄をしていますか？



備蓄食品の入れ替え頻度は？



備蓄食品の賞味期限を切らしてしまったことがある



災害時備蓄食品の入れ替え頻度は、「6か月～1年未満に1回程度」が半数にのぼり、続いて「1～2年未満に1回程度」の方が多かったようです。

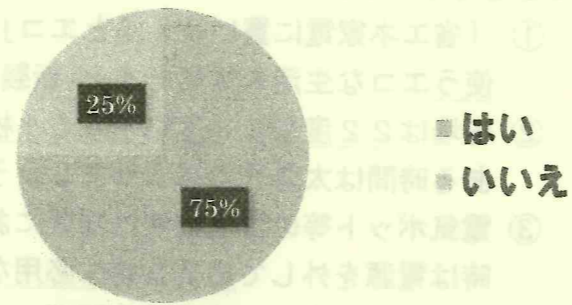
一方で、備蓄食品の賞味期限を切らしてしまった経験がある人57%と、入れ替えをしても忘れることもあるようです。賞味期限を切らしてしまった食品は、水、レトルト食品、カップ麺、お菓子とありましたが、水が一番多かったようです。

水の賞味期限は、「表示された容量が確保できる期限」といわれていますので、「飲めないもの」ではありません。期限が切れる前に入れ替えをするのが理想ですが、もし期限が切れていたとしても、捨てないで生活用水にも使えますよ！

「ローリングストック法」を知っている



「フードドライブ」を知っている



災害時用備蓄食品や、普段食べている食品を少し多めに買い置きして、食べたその分買い足す方法、「ローリングストック」をしながら、食べきれないものがあれば、賞味期限が切れる前に、「フードドライブ」(福祉施設などに提供)などを有効活用しましょう！(2023.2)

◎アンケートにご協力いただきありがとうございました

協会だより 2月号



釧路消費者協会

釧路市黒金町7-5 釧路市役所 2階

電話 24-2037 fax 24-2075

発行 令和5年2月13日

協会の動き

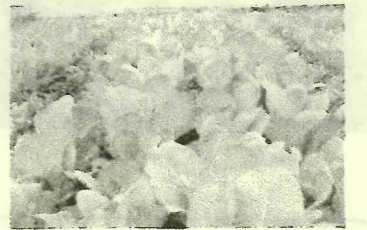
- 2月 1日(水) 三役会議
- 4・5日(土・日) 第51回くしろ消費者まつり
- 10日(金) 広報編集会議
- 13日(月) 協会だより発送
- 15日(水) 定例理事会



くしろ消費者まつり in2023

「昨年は食糧自給率が少し上昇」・・・とは言うけれど・・・

副会長 松本範一



令和4年は日本の食糧自給体制の問題が浮き彫りになりました。食糧自給率という言葉も多く耳にし、「日本の食糧はこの先どうなるのだろう」と不安を覚えた方も多かったのではないのでしょうか。

さて毎年8月には農林水産省から前年度の食糧需給表が発表されますが、その中で食糧自給率も発表されます。昨年2022年発表

(2021年度分)の自給率は、カロリーベースで37.97%ということでした。2020年度はこれまで最低の37.17パーセントでしたので、すこし改善されたように見えますが、わずか0.8%の改善です。農水省の説明によれば小麦と大豆が作付面積、単収とも増加したこと、コメの外出需要が回復したことなどが改善(?)の主な要因だということです。しかしこれではまだ国内の生産が回復したとまでは言えないでしょう。

一方自給率の公表前後に、国内農業生産が大変だという残念な実態も発表されました。

一つは国内農業の担い手として圧倒的に多い個人経営が、農業経営体数(個人農家や生産組織・会社形態の組織の総数)97万5100のうち前年より5.7パーセントも減少したことです。また農業に携わる人の数も5.8パーセント(7.6万人)前年より減っています。生産組織・会社形態等個人以外の組織は多少増えつつあるのですが個人経営の減少(離農)をカバーしきれないのです。またもう一つ残念な数値は野菜生産です。「日本農業新聞」が農水省のデータから分析した結果によればこの10年で作付けが増えた野菜はわずかに4品目で、小松菜・ブロッコリーが24パーセント、玉ねぎ6パーセント、キャベツは2パーセントの増加だそうです。しかし、他の品目は軒並み作付けが減少しており、この点も国内農業の大変さが表れています。

「食糧安保」なる言葉がとりわけロシアのウクライナ侵攻以降、盛んに言われるようになりましたが、具体的な振興策が中々取られていません。物価高騰、とりわけ飼料・肥料高騰による農業経営者への圧迫は大変なもので、待った無しの状況です。

今こそ政府には国内農業を元気にする具体的な振興策や政策により、農業従事者、及び国民が安心できる農業へと舵を切ってほしいものです。



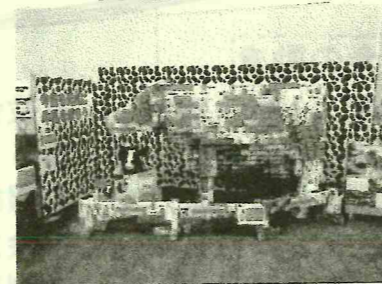
くしろ消費者まつり終了しました！

～第51回くしろ消費者まつり無事に実施できました～
 コロナ禍のため、中止していた「くしろ消費者まつり」ですが、今年度無事実施できました。

昨年はオミクロン株流行による感染者数の増加により実施が不安でしたが、年末から続く感染者数の減少の状況により飲食を伴わない中での企画により実施にこぎつけることができました。開催に向け準備及び実施にご協力くださいました皆様、参加していただいた皆様には大変感謝申し上げます。次年度は、コロナ等の終息した中、フル規格で実施できることを願ってお礼いたします。



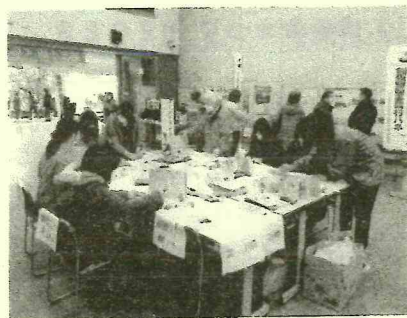
開場前の各ブース



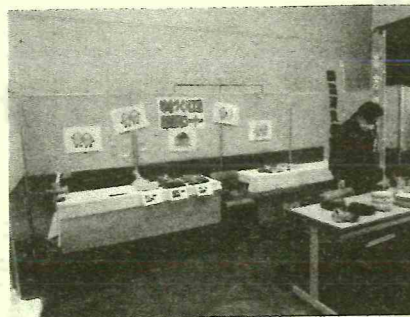
ジャンボ牛とよつば乳業のブース



パネルコーナー



新聞工作コーナー



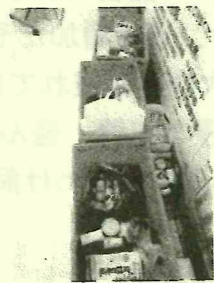
産直コーナー

たくさんの「フードドライブ」へのご協力ありがとうございました

釧路消費者協会・釧路市・生活相談支援センターくらしごと

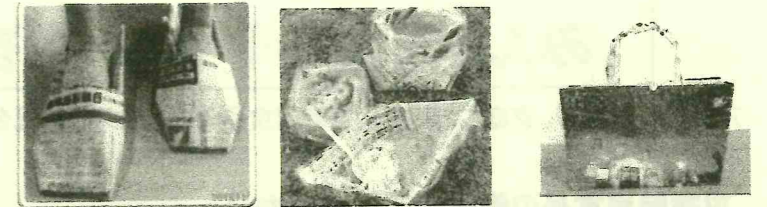
第51回くしろ消費者まつり（釧路市観光国際交流センター）にて「フードドライブ」を実施しました。2月4日（土）・5日（日）の二日間にわたり、未開封で賞味期限が1か月以上あるもので、96件、2,369個、約436.5kgもの食品をご提供いただきました。

協会では普段から、市役所本庁舎2階の協会事務局で、提供を受け付けておりますが、外部会場で、釧路市環境事業課の方々と一緒に実施したのは2回目となります。今回は、新聞、ホームページの他に、市内の学校にもチラシを配り周知をした結果、たくさんの子供たちが「フードドライブ」に興味を持って、親御さんと一緒に食品を会場まで持ってきてくれました。持ち寄っていただいた食品は、すべて、生活相談支援センター「くらしごと」に託しました。“食べ物を無駄にしない”がもっと広がっていくことを願います。



新聞紙の活用について

普段は資源ごみとなる新聞紙ですが、その活用について考えてみました。

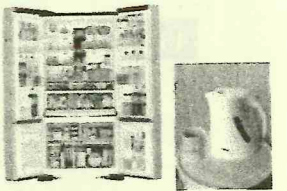


災害時には貴重な災害グッズとしてその価値が再認識されています。資源環境委員会では、資源ごみ等について様々なことをお知らせしてきました。昨年はインターネット等で新聞紙が災害時に役立つものとして取り上げられている事例を紹介してきました。

- ① 防災スリッパ・・・災害時の非難の際にけがをする危険なガラス破片から足を守るために、日常的に用意するものとされている靴やスリッパですが、中々用意できないものです。しかしこの新聞で作ったスリッパは折りたたむことができ、枕元に置いてかさばらず、ガラスも通さないくらい丈夫なものです。ご家族の分を作っておくと、いざという時の助けになります。（二重にするとより丈夫です）
 - ② 食器・・・地震で食器が割れてしまったり、断水で洗い物ができない時などに、新聞で食器を作ることができます。さらにラップをかけると繰り返し使えます。
 - ③ バッグ・・・最近はマイバッグを使うことで、以前は家庭にもたくさんあった紙袋も少なくなってきました。「あったらいいな！」と思うときに「いつでも、好きなデザインで」作ることができるのが新聞バックです。（きれいなカラー写真や広告紙面を使うと個性的になります）
- ※3つほど紹介しました。消費者まつり等ではたくさんの方と制作し、作り方にも改良を加えることができました。電話で問い合わせただけでしたらご紹介したいと思います。

省エネ対策

一昨年来続く物価高騰に拍車をかけるように、燃料や電気の値上げが私たちの生活を脅かしています。私たち市民は、少ない収入や年金の中で大変なやりくりを余儀なくされています。家庭でできる省エネを再度考えてみました。



北海道経済産業局が出している「お家で省エネ」によりますと、①車のふんわりアクセル運転（ガソリン代）②毎日の洗濯を2日に一回（電気代）、③FFストーブの温度を22度から20度へ（灯油代）④冷蔵庫を詰め込まずに半分にする（電気代）これらを合計すると年間25,380円節約できるそうです。（！）

- ① 「省エネ家電に買い替えるとエコ」と言われていますが、今あるもの（旧式家電）を上手に使うエコな生活も大切です。（新製品がそれほどエコとは言えないことも多いようです）
- ② 冬場は22度を20度に下げて1枚厚着して、日中は暖房を切り、日差しのある時間は太陽光で暖まりましょう。
- ③ 電気ポット等の保温機能は頻繁にお湯を使う場合は必要ですが、そうでない時は電源を外して必要な時に必用な分を沸かすことが大切です。
- ④ 湯たんぽを使い、冷え性を解消！（今は充電式のものもたくさん出回っている湯たんぽですが、乾燥を防ぎ、寝つきが良くなるために昔から重宝されてきました。朝はそのお湯で手洗いや洗顔もでき大変エコなグッズとして評判ですね。）

